

スキンケア製品の使用による、粘着製品使用時の皮膚トラブル対策

3M™ キャビロン™ 皮膚用リムーバー及び、3M™ キャビロン™ 非アルコール性皮膜の使用方法



一般医療機器：液体包帯
届出番号：13B1X10109000148
販売名：キャビロン非アルコール性皮膜 スプレー

一般医療機器：液体包帯
届出番号：13B1X10109000147
販売名：キャビロン非アルコール性皮膜 ワイブ

動画(使用方法)のキャプチャー画像を掲載した資料です。
動画の視聴とあわせてご活用ください。

動画URL：http://go.3M.com/medical/adhesion_skincare/ (再生時間：4分36秒)



はくり剤（リムーバー）と被膜剤の使い分け目安

はくり剤と被膜剤は使用する場面に応じてどちらか一方が適している場合があります。
製品の使い方を紹介する前に、使い分けにおけるチェックポイントをご紹介します。

		はくり剤	被膜剤
主な機能		粘着力を弱める	皮膚の上に膜を形成
使用タイミング		剥がすとき	貼る前
配慮が必要な粘着製品	対極板、電極など	○	× 電気的特性に影響
	経皮吸収剤など	○	× 薬剤透過性に影響
清潔操作		× 未滅菌	○ ただし滅菌済タイプのみ
使用できる皮膚状態		健全皮膚 (薬機法対象外)	健全皮膚 赤みや肌荒れのある皮膚 (医療機器)

粘着製品が対極板・電極の場合は、電氣的抵抗に影響を及ぼすため被膜剤は適していません。はくり剤の使用をご検討ください。皮膚の清拭方法は、対極板・電極の添付文書をご確認ください。

カテーテル刺入部周囲など、清潔操作が必要とされる場合は、滅菌タイプの被膜剤をお勧めします。

患者の皮膚の状態が赤み・肌荒れがある場合には医療機器の被膜剤が使用可能です。

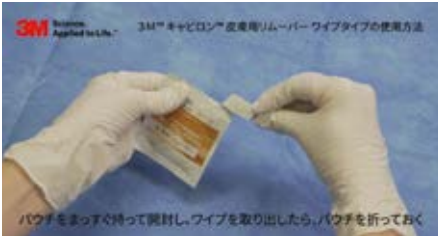
3M™ キャビロン™ 皮膚用リムーバー ワイプタイプの使用方法

3つのポイント

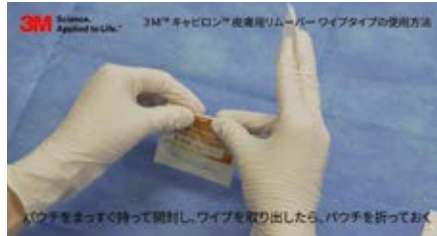
- パウチはまっすぐ持って開封する
- ワイプを取り出したら、パウチの端を折っておく
- ワイプが乾いても、パウチに残っている液を注ぎ足せる



製品番号：TP2
容量：3mL



1 パウチをまっすぐ持って開封します。



2 ワイプを取り出したら、残りのはくり剤がこぼれたり、乾燥したりしないように、パウチの端を折っておきます。



3 ワイプが乾いても、パウチに残っている液を注ぎ足せます。

気管内チューブ固定用テープを剥がす場合



はくり剤が口等の粘膜に触れないように、テープを90度に折り返し、皮膚と粘着剤の隙間に、はくり剤を染み込ませて剥がします。

対極板を剥がす場合



1 対極板は、外周に粘着力の強い部分があるため、皮膚と粘着剤の隙間にはくり剤を少量ずつ滴下してめくり始めます。



2 広い面を剥くときはワイプを滑らせるようにして、剥きます。液が不足した場合は、パウチの残った液を注ぎ足して使用します。

皮膚に粘着剤が残った場合（心電図用電極の例）



1 心電図用電極を例にして、皮膚に粘着剤が残った場合の除去方法をご紹介します。



2 ワイプを糊残り部分にあて、2秒から5秒間、はくり剤を馴染ませます。



3 ワイプを皮膚にしっかりとあて、一方方向にゆっくりと動かし、粘着剤を写し取るように拭き取ります。

チューブに粘着剤が残った場合



1 チューブに粘着剤が残った場合の除去方法をご紹介します。



2 残った粘着剤部分の大きさに合わせて、ワイプを広げます。



3 ワイプを粘着剤が残った部分に巻きつけます。はくり剤を染み込ませるために5秒から10秒間しっかり握ります。



4 刺入部側のチューブを動かさないように押えます。ひねりながら、ワイプを身体から遠ざかる方向にゆっくりと移動させます。



5 仕上げとして、パウチに残っている液を注ぎ足し、



6 全体を軽く拭取ります。

3M™ キャビロン™ 非アルコール性皮膚膜 スティックタイプ (滅菌済) の使用方法

3つのポイント

- 皮膚消毒を先に行い、消毒剤が十分に乾燥してから、被膜剤を塗布する
- 重ね塗りはしない
- 被膜剤が完全に乾燥するまで待ってから、粘着製品を貼付する



製品番号：3343E 容量：1mL 製品番号：3345E 容量：3mL
一般医療機器：液体包帯 届出番号：13B1X10109000147
販売名：キャビロン 非アルコール性皮膚膜 ワイブ



パウチを上から開封します。

血管内留置カテーテル刺入部位付近に使用する場合 3343E(1mL)使用



1 常在菌を減らすために皮膚消毒を先に行います。消毒剤が十分に乾燥してから、被膜剤を塗布します。



2 スティックを取り出し、目安として刺入部から2～2.5cm程度の範囲を避け、ドレッシング材貼付部分に塗布します。重ね塗りはしないようにします。

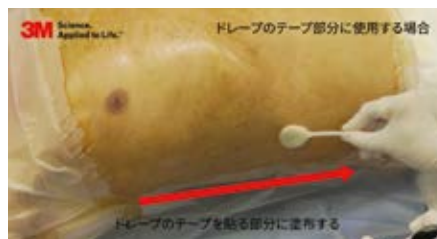


3 被膜剤が完全に乾燥するまで待ち、フィルムドレッシング材を貼ります。被膜剤が乾燥する前に貼付すると、皮膚トラブルの原因となる場合があります。

ドレープの粘着剤部分に使用する場合 3345E(3mL)使用



1 常在菌を減らすために皮膚消毒を先に行います。消毒剤が十分に乾燥してから、被膜剤を塗布します。



2 スティックを取り出し、ドレープのテープを貼る部分に塗布します。重ね塗りはせず、一方向に塗布します。



3 被膜剤が完全に乾燥するまで待ち、ドレープを貼ります。被膜剤が乾燥する前に貼付すると、皮膚トラブルの原因となる場合があります。

3M、キャビロンは、3M社の商標です。

2019年7月発行



スリーエム ジャパン株式会社
医療用製品事業部

<http://go.3M.com/medical-jp/>

Please Recycle. Printed in Japan.
© 3M 2019. All Rights Reserved.
HPM-086-A

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

0570-011-321

8:45～17:15 / 月～金 (土日祝年末年始は除く)